

ノウハウに精通しています!

防災
特集

第二の人生、とことん藤沢。
安田 けいすけ さん
湘南高 第52回生・東京大学法学部 卒
朝日新聞社 勤続40年

災害に強い
藤沢へ。



藤沢駅ほか、街頭活動実施中! 街で見かけたらぜひお声がけください。

2月6日に起きたトルコ・シリア地震で犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈りいたします。また被災された方々にも心からお見舞い申し上げます。あの3.11東日本大震災から今年で12年になります。また関東大震災からちょうど100年に当たります。いま一度、藤沢市の防災、減災について考えたいと思います。(詳細は裏面)

教育

- 教職員の負担軽減に取り組みます。
- 不登校問題に多様な解決法を提案します。

子育て

- 保育士を増やし待機児童ゼロを続けます。

福祉

- 健康寿命をのばす施策を拡充します。
- 介護負担軽減に取り組みます。
- 湘南ライフタウンの高齢化対策に住みやすさ重視の抜本的な提案をします。

労働

- 雇い止めを防止します。
- 非正規社員、会計年度任用職員の労働条件改善につとめます。

防災

- 避難訓練だけではない「防災教育」を提案します。
- 災害時の迅速な情報共有化をすすめます。

環境

- 海岸線の美化、「磯焼け」問題に取り組みます。
- 北部地域の里山保全を推進します。

まちづくり・交通

- 新駅を含めた村岡地区のまちづくりを徹底的に議論します。
- 御所見地区のコミュニティバスを復活させ、高齢者はもちろん、通学利用を無料にします。



安田けいすけ
公式

政策や活動情報は...

LINE

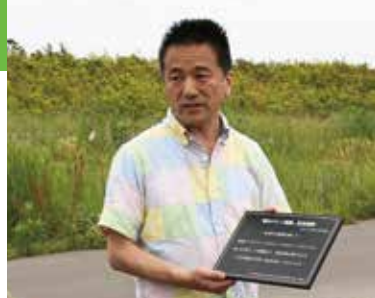


安田けいすけ プロフィール

- 1958(昭和33)年12月生まれ
- 3才から藤沢団地
- みくに幼稚園・大道小・藤ヶ岡中
- 県立湘南高校 第52回生
- 東京大学法学部 卒業
- 朝日新聞社 勤続40年

朝日新聞では主に販売戦略を担当、国際営業部長などを歴任。新聞記事データベース化事業、契約社員も加入できる第二労組結成、東日本大震災復興支援運動「緑のバトン運動」を企画実行。

- 家族 妻・子供4人(うち2人独立)



「緑のバトン運動」は全国の子どもたちに校庭などで育ててもらった東日本大震災の被災地産の苗木を被災地に植える、緑の再生を支援する活動です。2016年度末までに延べ590校が参加、計7640本の苗木を植えました。



趣味

- 山登り
日本百名山挑戦中、現在78座登頂
- スキー(1級程度)
- 史跡巡り ● 70・80年代のロックライブ鑑賞

衆議院議員

阿部知子も
全力応援!



国民の意見に耳を傾けるはずの岸田政権は、防衛費倍増から原発回帰まで、国会も開かずに決定! そんな中で4年に1度の統一地方選が行われます。過去の過ちを繰り返さないためにも、市民の参加と住民自治がこれほど望まれる時代はありません。安田さんは藤沢の平和都市、非核自治体の歩みと共に育ち、また社会人としての経験も豊かです。これからの人生、市民とともに藤沢市のために働きたいという心意気、私も心から応援します。

災害は人の意識と行動で被害の程度が変わります

災害とは自然現象が人間の生活に悪影響を与えることであり、人智を超える力が襲いかかってくることは、東日本大震災や熊本地震で目の当たりにしました。想定外が頻発し、安全だと思われていた避難施設にも被害が及びました。ゆえに人の意識や行動が生死の分かれ目となります。

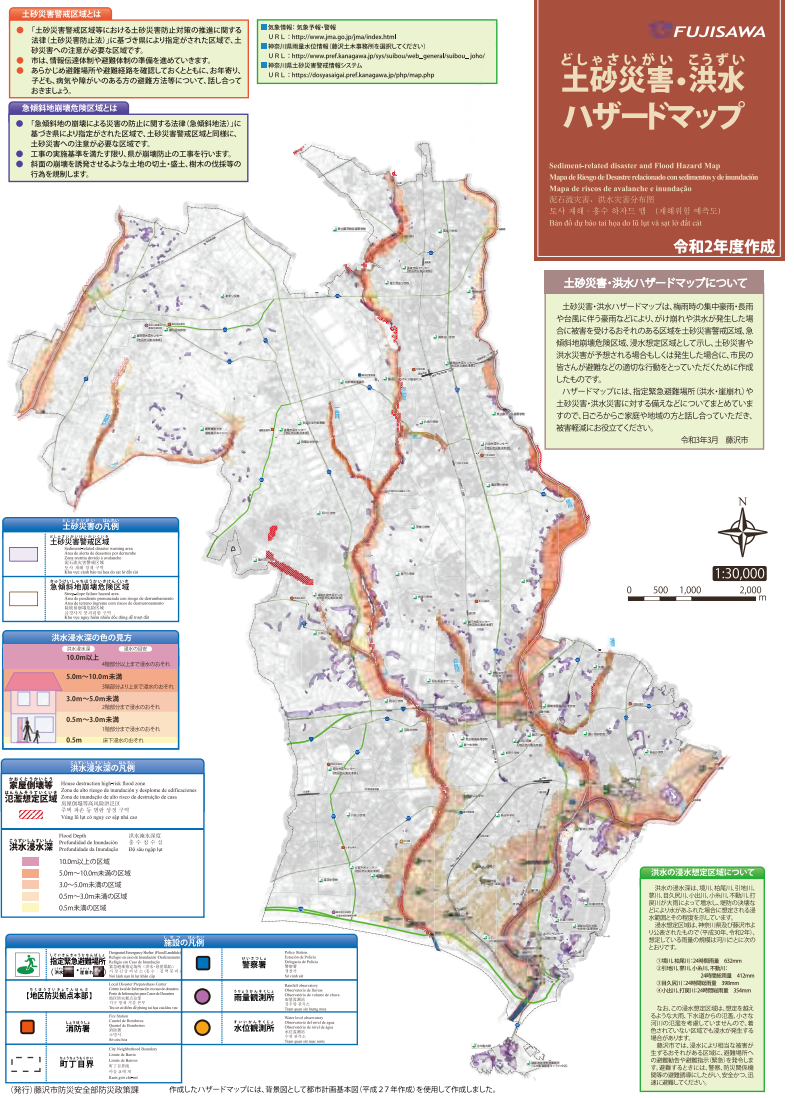
●防災意識を高める施策展開と避難施設の充実化を まずは津波避難施設の把握から

藤沢市は津波災害警戒地域に指定されています。

2021年秋に作成された「藤沢市地域防災計画」では、発生後12分で最大11.5mの津波が沿岸部に到達すると想定されています。津波に耐え避難施設となりうるインフラは湘洋中新校舎(高さ15m)、国道134号と遊歩道(高さ6.7m)、海岸エリアに点在するマンション、団地などぐらいです。これでは避難施設として不十分だと言っても過言ではありません。さらに、辻堂海岸の松林は普段の防砂の役割は果たします。しかし、津波の破壊力を減衰させるには幅200mが望ましいとされていますが、その幅はありません。それどころか樹木は流されれば凶器となります。このような津波の特性を十分に理解したうえで、各自が防災意識を高めることのできる施策を展開すると同時に、避難施設を増やす工夫をすべきであると考えています。



全てをさらう津波の威力。藤沢市でも早急な対策が求められる。(岩手県大槌町)



●防災授業を全小中・特別支援学校で

市内小中学校や全国各地での防災授業をおこない、自ら考え災害時の行動を想定することで、命を守る意識と行動が格段に上がることが分かりました。避難訓練や起震車体験に加え、市内の全小中学校での防災授業実施をめざします。

時系列「防災巻」 単なる「タイムライン」とはちょっと違う「防災巻」

発災から避難所または家まで戻って家族に会えるまでの物語を自分で想定し、巻物にします。学校にいるときに発災しても、先生はたまたま居合わせない。自宅の場合は家族がみな不在、または弟妹だけで留守番中に発災。つまり先生や家族に頼れない状況で自分の行動を想定する。その後ほかの人と見せ合い、アドバイスしあって、修正して完成。さらに地震がもし1分前、1日前、1年前にわかっていたら何をするかも考え、防災減災対策がおのずと明確化していきます。



防災マップ作り

グループで自分の家の周りを歩いて防災(あるいは交通安全、防犯)マップを作ります。

避難訓練・起震車に加え、「防災巻」「防災マップ」づくりの授業を



全国各地で防災授業をおこなった
安田けいすけさんの視点

子どもが大人の行動を促す

～岩手県釜石市の防災教育～

東日本大震災で甚大な被害がおよんだ岩手県釜石市。数十年に一度の割合で被害に遭う津波常襲地帯で、以前から防災教育に注力する地域です。震災では全小中学生の99.8%が助かり、「釜石の奇跡」と呼ばれるほど防災教育が功を奏した地域として注目されました。たとえば副読本などいたるところに「津波」が盛り込まれ、算数の速さ問題は自動車ではなく津波が使われていました。また、「まだ大丈夫」と軽視している大人に対し、子どもたちが避難を促した例もあり、防災教育は子どもだけでなく、大人を含めた地域全体を守ることにつながるのです。

安田けいすけの提案

■地域・自治会単位での「防災巻」制作支援

もちろん学校だけでは防災は完結しません。ご家庭や地域、自治会単位での話し合いも重要です。自治会役員と生徒が一緒になって「防災巻」を作成した経験を藤沢市でも活かし、このようなコーディネートをしたいと考えています。また、災害時は「中学生の助けが大いに役立った」など、現場でしか知り得ない情報と経験を藤沢市政に活かしてまいります。

■年1～2回の防災授業実施

市内の全小中学校と特別支援学校で、家庭科や総合的な学習の時間などを活用し、専門の外部講師を招いての防災授業実施をめざします。



ご意見
ご要望は

安田けいすけ

〒251-0011 藤沢市渡内4-30-7

☎ 090-7442-7719 FAX 0466-24-8517

✉ info@yasuda-fujisawa.net